

えりもしやくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

<http://www.town.erimo.lg.jp/section/>

[kyouiku/sg6h94000000pqh.html](http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html)

昨年度から始まった教育委員と地域学校推進委員の合同学校訪問が、今年も10月20日の東洋小学校をスタートに始まりました



学力調査の活用など教育課程を説明する
粕谷奈美教諭

○10月20日(火) 教育委員と地域学校推進委員(藤井祐二・木下 泉・川村健太氏)による学校訪問が始まりました。特に、教育委員学校訪問は毎年実施しているものですが、昨年度から地域学校の推進のため、学校の様子を一層、理解することを目的として合同学校訪問と位置

付けて行っております。

○東洋小学校では、中田実千代校長、吉田貴弘教頭から学校経営・運営、教務主任の粕谷奈美教諭から教育課程(特に学習の取組)について、三浦良美教諭から生徒指導について、上居孝壮教諭から研修の取組について、説明と質疑が行われました。その後、各学年の複式授業を参観し、指導の難しさや複式学校の大変さを理解することができました。



5年生1名、6年生5名の学習を参観する委員

10月22日には、庶野小で教育委員と地域学校推進委員の合同学校訪問が行われました

○10月22日、庶野小学校で教育委員と地域学校推進委員の合同学校訪問が行われました。○訪問では、中山敏校長と伊部由紀江教頭から学校経営と運営について、池原慶志郎教諭から教育課程(特に学習の取組)について、佐藤実香子教諭から生徒指導と特別支援教育について、それぞれ説明がありました。



「はこをきったりつなげたりして、好きなものを作ろう」を1時間のめあてとして学習に取り組む1年生と神谷教諭

○その後、1年生「図工」、2年生「書写」、3・4年生「音楽」、5・6年生「算数」の授業をおとして児童の様子を参観しました。○どの先生方の指導も丁寧で情熱をもって進められており、そのことが児童に伝わって、一生懸命に先生の発言に応えるなど、進んで学習に参加していることが伝わってきました。



国語の書写「左はらい」の違いを学習する2年生と沼舘教諭

10月23日には、えりも岬小で教育委員と地域学校推進委員の学校訪問が行われました

○10月23日、3回目となる教育委員・地域学校推進委員の合同学校訪問がえりも岬小学校で行われました。

○高杉省一校長から学校方針や前期の経営の状況を説明し、続いて、工藤麻未教諭が家庭学習の手引きなどについて、小川貴宏教諭が生徒指導組織について説明しました。



学力の分析や家庭学習の手引き作成、補充学習としてのフォローアッププリントの活用などを説明する工藤麻未教諭

○また、4月から10月までの児童の活動の様子について作成した動画を見ながら、学校の様子を理解することができました。

○授業参観では、1・2年生が体育・跳び箱運動で「りょうてをついてとびこそう、ちゃくちのときに、とまろう」のめあてを掲げて学習、3・

4年生は複式授業ですが、3年生は、算数・かけ算で「かけ算は、どのようにひっさんをするのだろう」をめあてに、4年生は、算数・資料「整理の仕方」で「データがわかりやすい表にする方法を考えよう」、5・6年生は複式授業で、5年生は国語「白神山地とはどんなところなのだろう」、6年生は「うれしさについて話し合い、同じうれしさをまとめて題名をつけよう」を学習課題として取り組んでいました。



4月から10月までの児童の活動の動画を、教育委員と地域学校推進委員が真剣に見ていました

○動画では、1学期からの活動「4名の新入生の紹介、少年神楽の岬先端での発表、体育発表会、一日防災地域学校」等が紹介されました。情報機器活用のよさの一端を知ることができました。

○また、授業では低学年から育ててきた「学びの姿勢」が、自ら考えたり、互いの考えを交流したりする成長した姿として見られたことも印象に残りました。



真剣に国語の学習に取り組む5年生と、主体的で対話的な深い学びをめざして取り組む6年生

○えりも町には、4校（笛舞、東洋、えりも岬、庶野）の複式学校があります。

○複式学校では、一つの教室に二つの学年が一緒に生活し、算数や国語などは教育内容が学年でしっかり学習しなければならないので、別々に学んでいます。また、体育や音楽などは、教科の特性を生かしながら学年で目標を持たせながら、2年間で二個学年の内容を終えるように計画し学習しています。（「AB年度方式」と言います）

○上の写真は、5年生（手前）と6年生が別々に、国語を学習している様子です。

○6年生は、先生が5年生を直接に指導しているときに、児童自らが課題を解決するために話し合いをしています。

○今、日本では、「主体的・対話的で深い学び」の学習の場面が強く求められていますが、複式学級での、まさに、その一場面と言えます。